

エプソン PX-5500 での「ピクトラン」のプリント方法

カラープリント

次の3種類の方法ともに良好な仕上がりが得られます。

・マットブラックインクを装填します

プリント方法	Photoshop CS2	プリンタドライバ
<p>代用プロファイルを使用</p>	<p>[ファイル] [プリントプレビュー]</p> <p>カラー処理： [Photoshop によるカラー処理]</p> <p>プリンタプロファイル： [PX5500 Velvet Fine Art]</p> <p>マッチング方法： 写真に合わせて適宜選択 目安のソフトプルーフは[ビュー] [校正設定] [カスタム...]</p>	<p>給紙方法： [リア手差し]</p> <p>用紙種類： [Velvet Fine Art Paper]</p> <p>印刷品質： [スーパーフォト 1440dpi]</p> <p>双方向印刷： オフ</p> <p>プリンタカラー調整： [色補正なし]</p>
<p>マニュアル色補正を使用</p> <p>Photoshop 以外からもプリント可能</p> <p>赤とオレンジはわずかに Y が強くなります</p>	<p>[ファイル] [プリントプレビュー]</p> <p>カラー処理： [カラーマネージメントなし]</p>	<p>給紙方法、用紙種類、印刷品質、 双方向印刷設定は上記と同じ</p> <p>色補正方法： [EPSON 基準色 (sRGB)] または[自然な色あい]</p> <p>ガンマ： [1.8]</p>
<p>オートファイン！6を使用</p> <p>Photoshop 以外からもプリント可能</p>	<p>[ファイル] [プリントプレビュー]</p> <p>カラー処理： [カラーマネージメントなし]</p>	<p>給紙方法、用紙種類、印刷品質、 双方向印刷設定は上記と同じ</p> <p>プリンタカラー調整： [オートファイン！6]</p> <p>色調： [標準]</p>

・フォトブラックインクを使ったカラープリント

フォトブラックでもプリントは可能です。マットブラックに比べて彩度、コントラストともに弱めの仕上がりが得られます。マットブラックインクでのプリントは「カリカリ派手派手」で好みではない、という場合にお試しください。用紙設定は[写真用紙<絹目調>]を選択します。プロファイルは[PX5500 Photo Paper (SG)]が代用可能です。[マニュアル色補正]や[オートファイン！6]設定でも良好な結果が得られます。

モノクロプリント

- ・ マットブラックインクを装填します

プリント方法	Photoshop CS2	プリンタドライバ
プリンタドライバのモノクロモードを使用	[ファイル] [プリントプレビュー] カラー処理： [カラーマネージメントなし]	給紙方法： [リア手差し] 用紙種類： [Velvet Fine Art Paper] カラー： [モノクロ写真] 印刷品質： [スーパーフォト 1440dpi] 双方向印刷： オフ モノクロ色調： お好みで（[純黒調]のままでもウォームトーンに仕上がります） 調子： お好みで（デフォルトの[硬調]は硬めです） その他の項目： お好みで
プリンタドライバのカラーモードを使用	ピクトランのICCプロファイルが必要です	

データ作成時の注意

マットブラックインクの場合、RGB 値がおおむね 15 以下のシャドウは墨の乗ったような仕上がりになり質感が変化しますので、シャドウをあまり落とさないデータを作ったほうがいいと思われます。またコントラストが高くなる傾向がありますので、データは柔らかめに作っておいたほうが自然です。

- ・ フォトブラックインクによるプリント

フォトブラックでもプリントは可能です。マットブラックに比べて全体にコントラストの弱い仕上がりが得られます。そのため、コントラストを少し高めにデータを作ったほうがいいと思われます。用紙設定は[写真用紙<絹目調>]を選択します。

その他の注意事項

・用紙選択

マットブラックインクでプリントする場合、給紙方法として「リア手差し」を指定しないと Velvet Fine Art Paper が用紙種類メニューに現れませんので注意してください。ただしコスモスインターナショナルが「お試し用セット」として販売しているポストカードサイズはリア給紙ができませんので、「オートシートフィーダー」から給紙し、用紙種類は「フォトマット紙 / 顔料」を指定してください(マットブラックインク時)。

・給紙方法

ピクトランは紙厚が厚く腰も強いいため、リアからの手差し給紙をお勧めします。また、Velvet Fine Art Paper はリア手差しを指定しないと用紙種類メニューに現れません。

リア手差しには多少のコツが必要ですので、ピクトラン以外の用紙も使いながら何回か試して慣れてください。とくに、PX-5500 が最初に引き込むときに軽く押すようにすると確実です。

万が一、最初の噛み込みや紙幅検出時の紙送りに失敗すると、給紙ボタンの LED が点滅します。マニュアルには「電源を再投入せよ」といった主旨のことが書かれていますが、ヘッドクリーニングが行われることになりインクが無駄になってしまいます。リア手差しで給紙エラーが出た場合は、ロール給紙ボタン(トレットペーパーのようなアイコン)を押して、紙を後ろに排出します。プリンタが落ち着いた段階で給紙ボタンを押すと LED の点滅は消えますので、もう一度リアトレイから紙を差し込んでください。なお、給紙ボタンやロール紙ボタンを押すときに、誤ってインクボタンを押さないように注意してください。

・印刷後の取扱い

少なくとも1時間程度は自然乾燥させてから色調やトーンを判断してください。顔料インクの場合はとくに印刷面に傷がつきやすいので、取扱いと保管には十分に注意してください。

・専用のプロファイルが欲しい場合

前述した代用プロファイルでのプリント方法はあくまで「代用」でしかありません。ピクトランの特性に合った「正しい」プロファイルが必要な場合は、Eye-One などを使ってご自身でプロファイルを作成するか、外部のプロファイル作成サービスに依頼してください。たとえば、溝渕氏が運営する PLIE shopICC (<http://www.plie.org/shopICC/index.html>) など。

ベストなプリント方法は作者の意図や作品の方向性によって異なります。上記の説明を参考としながら、ご自身の作品に合ったベストな解を探してください。

テストプリントとまとめ : 関 行宏

<http://bwphotography.jugem.jp/>

2007/4/30 rev.01